



東京の会通信

No.308

2023年5月1日号
(隔月1日発行)

発行：骨髄バンクを支援する
東京の会
〒101-0031 東京都千代田区
東神田1-3-4 KTビル3階
TEL：03-3866-8171
(FAX兼用)



<http://www.marrow.or.jp/tokyo/>
e-mail:marrow_tokyo@yahoo.co.jp
定価 100 円

東日本大震災より12年。 今年も防災フェア盛大に開催！

東京新都心ライオンズクラブ

会長 笹本亜紀

2023年3月12日(日)新宿中央公園・水の広場で東日本大震災をはじめとする復興支援イベント「第12回防災フェア&チャリティーイベント」を開催し、「献血・骨髄ドナー登録活動」を行いました。今年は3年ぶりにコロナで取りやめていたチャリティーバザー出店も再開できることとなり、復興支援はもちろん、ご来場される方楽しんでもらえるよう、西新宿角三町会や日赤職員、公園関係者、皆が一丸となって念入りな打ち合わせを重ねてまいりました。

当日は天気にも恵まれ、たくさんの方にご来場いただきました。ぼうさいスタンプラリーでは、けむりハウスや起震車を設置し、災害の擬似体験をしたり防災パンチトイレや防災グッズの展示を行い、スタンプラリー形式で防災意識を高める体験コーナーを設けました。

献血・骨髄ドナー登録のブースでは、昨年同様、事前登録制を導入し感染対策や待ち時間を短縮し、たく



日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー
(令和5年3月末日現在)

	ドナー(全国)	ドナー(東京)	患者(全国)
登録者累計	544,305	69,975	66,332
2-3月登録分	4,934	679	451
2-3月抹消数	4,451	530	—
実質登録増	483	149	—

さんの方にご協力いただきました。また当日も献血やドナー登録の呼びかけをして、骨髄ドナー登録に興味を持ってくれた方や献血にご協力いただき、大変嬉しく思いました。

ステージでは、防災活動はもちろん、出演者の皆様、合唱や和太鼓、チアリーディングなど様々なエンターテイメントで会場を盛り上げてくださいました。

毎年自然保護運動で交流のある曾我山応援隊のみなさんも小田原市から駆けつけてくださいました。

本イベントご参加者のみならず、日頃よりご協力頂いております全ての方に心より感謝申し上げます。今後もイベントなどを通して、献血・ドナー登録の大切さを一人でも多くの方に知っていただけるよう、活動が続けていきたいと思ひます。

4年ぶりのイベントを楽しみながら

3月12日に新宿中央公園「水の広場」にて『第12回防災フェア&チャリティーイベント』が開催され、献血バス1台による献血併行ドナー登録会に東京の会から説明員6名とボランティア3名が参加しました。

このイベントは東日本大震災の復興支援イベントとして始まり、西新宿角三町会主催、東京新都心ライオンズクラブ共催で2012年から毎年3月11日前後の日曜日に開かれています。新型コロナウイルスの感染拡大で2020年は中止、2021年、2022年は規模を縮小して献血と骨髄ドナー登録のみの開催でしたが、今年は4年ぶりに各種防災&チャリティーイベントが復活し、ス

患者とドナー登録・適合状況(3月末日現在)

ドナー登録受付者数(累計)	921,966人
ドナー登録抹消者数(累計)	377,661人
HLA適合報告ドナー数(累計)	368,988人
実質登録患者実数(現在)	1,734人(国内1,219人)
HLA適合患者数(累計)	52,803人(患者累計数の79.6%)
非血縁移植実施数	27,558例(2-3月実施208例)

テージや模擬店、チャリティバザーや「ほうさいスタンブラリー」などに親子連れなど多くの人が集まりました。

お天気にも恵まれイベント日和の陽気で、学生の吹奏楽部の演奏や模擬店のおいしそうな匂いにつられながら交代で楽しく活動できました。

当日の献血は基本的に予約制で、東京の会は血压測定を担当しながら測定を終えたタイミングで声をかけ、希望された方に説明員がドナー登録の説明を行いました。その結果10名の方に登録していただきました。

震災のあった午後2時46分から会場全体で1分間の黙とうを捧げてイベントは終了し、献血バスは16時まで稼働後に終了しました。震災のあの日は東京の私達



にとっても忘れられない特別な日で、被災地の方たちの苦しみや悲しみを想像はしても共有することは難しいかもしれませんが、思いを馳せて寄り添いたいと思っていることを伝えたいと思います。（福永遠子）

10代・20代の若者がドナー登録

3月12日、東日本大震災の記憶を忘れず、防災意識を高めるための「防災フェア&チャリティーイベント」が開催されました。この日は風もなく、薄曇りの最高の天気でした。日赤の献血バス1台を迎えて、新都心ライオンズクラブの皆さんと東京の会の説明員がドナー登録の説明を行いました。結果はドナー登録10名で、内訳が10代が2名、20代が7名、40代が1名と、圧倒的に10代、20代が多く素晴らしい結果でした。最近では若年層の登録を優先し、若い世代をメインターゲットとして声掛けを行なうようにしています。

催し物もプラスバンドや、歌、体操など賑やかで地域の方々も参加されていました！今年も焼きそばや野菜やお酒などのお店が出ていましたが、私個人としては故郷石巻の雄勝町から朝取りの牡蠣を運んで来てくれて、美味しい蒸し牡蠣をたくさん食べてとても嬉しかったです。（竹崎恵子）

南アルプス桃源郷マラソンで親睦を深めました

4月9日、4年ぶりに開催された「南アルプス桃源郷マラソン」大会。桜は満開の時期を過ぎていましたが、まだ残っていた桃の花を眺めながら、楽しく走れました。

大会は、コロナの影響で種目ごとにスタート時刻を分けた関係で、今年はハーフマラソンの部は無く、成人向けには5Kmと10Kmの2つのコースになっていました。

山梨で勤務していた若木さんとの縁で東京の会のメンバーが参加し始めたこの大会、コロナ前は毎年ランナー、応援団と10人前後で参加していましたが、今回のメンバーは、意外と走り屋 若木さん、スポーツマン光江さん、そして私石崎のランナー3名、応援団として妻が参加しました。ランナー総数は2,100名あまりで盛況でしたが、ハーフマラソンの部が無かったこともあり、過去の参加人数の半数ほどだったそうです。

当日の気候は快晴、スタート時の気温16℃。日差しが強く、走るにはやや暑いかなと感じたものの気分は最高でした。ランナーたちは、各自思い思いのウェアで疾走。ランニングシャツに短パンもあれば、長袖長

パンもいて様々。目を楽しませてくれる着ぐるみランナーの数は少なかったように思います。

移植経験者の光江さんにとっては、2019年のまさかのエントリー漏れから4年待ってリベンジ参戦。初のマラソンでしたが、富士山がキレイな青空の下、とても気持ち良さそうに走られ、無事に好タイムでゴールしました。

上り坂がキツイコースですが、沿道の方々からの応援もたくさんいただいて、とにかく温かな気持ちになるマラソン大会です。皆さんもランナーとして、あるいは応援メンバーとして、来年は参加してみませんか？

マラソン後は、山梨の会を引っ張っている高遠さんとの懇親会も開催でき、久しぶりの対面での情報交換に話の花が咲き、充実した2日間でした。（石崎保夫）



患者家族電話相談
白血病フリーダイヤル

や ま い こ く ふ く
0120-81-5929
毎週土曜日 10:00～16:00

※第2・4土曜日は血液専門医も相談に応じます。
※医師に言えない悩み事などもどうぞ。

東京マラソンでチャリティランナーを応援

東京マラソン、チャリティラウンジから

今年の東京マラソンでは、全国骨髓バンク推進連絡協議会も寄付先団体の一つに選定され、協会に寄付をして下さったランナーの方々（63人、そのうち海外から5人）のためのチャリティラウンジを東京駅近くの東京国際フォーラムに設置いたしました。

当日、ラウンジには御家族を含め全部で38人（選手17人、海外からは3人）の方が立ち寄ってくださいました。完走した方はいかにもさわやかな充実感にあふれていました。一方、無念にも完走できなかった悔しさをにじませておられる方もおられました。嬉しかったのは背中に「骨髓バンクをよろしくね」のゼッケンをつけて走り通した方も数人、後光が射すような感じがしました。

かつてビッグサイトがゴールだった時代はゴール地点に観衆が少なく、レインボーブリッジを渡る際の風が冷たく感じられたそうです。今は東京駅がゴールになり、大勢の観衆の声援を受けて東京駅前にゴールする感激が素晴らしいと聞きました。コロナで3年間制限されていた参加人数も従来通りの38,000人に戻りました。

観衆の中をゴールする嬉しさに添えて、我々寄付をいただく側もさらなる感謝の気持ちを伝える方法を考えて行きたいと実感した一日でした。（及川耕造）



東京マラソン2023応援ブースに参加して

全国協議会の東京マラソン応援活動に初めて参加しました。会場の国際フォーラムの全国協議会ブースで、競技を終えた選手に飲み物などを提供しました。今回は約60名の方が全国協議会の枠より出場しました。戻られた選手に「なぜ骨髓バンクを支援している全国協

議会の枠から出場したのですか？」と聞いたところ、やはり近い関係の方が白血病などの血液疾患に罹患されたと言う事でした。今回は飲み物だけの提供でしたがお腹が空いたと言う方も多く、次回は軽食などの提供も必要なのではと課題が残りました。



（泉孝之）

東京マラソン 沿道でのぼりを振って応援！

東京マラソンが3月5日に開催され、東京の会としては2020年以来4年ぶりに沿道応援に参加しました。

当日午後、東京の会は会報発送作業『おりおり』を予定していたため、会員6名が事務所に近い東日本橋まで轢をもって応援に駆けつけました。

東日本橋は、コースの16km手前と浅草で折り返して来てからの30km手前地点にあたり、目当てのランナーがいる場合は2回応援するチャンスがあります。現地には10時頃到着し、フルマラソンを2時間台で走るトップランナーが過ぎ、ちょうど3時間、4時間をゴール目標にしているランナー達が続々と走り抜ける時間帯でした。

沿道で轢が目立つ場所を陣取り、声援を送ります。未だコロナ禍という事もあり、沿道の人出はコロナ前より少なく感じました。それでも今年は外国からのランナーもたくさん参加されていたり、仮装のランナーもいて、東京の幅の広い道路がランナーで埋め尽くされる姿は圧巻でした。

沿道で応援をしていると、轢に気付いた骨髓バンクに寄付をくださったチャリティランナーの方が数名駆け寄ってきて声をかけてくださいました。チャリティランナーのみなさんは背中のゼッケンに患者さんやバンクへの応援メッセージを書き込んでおり、それを見てみて！と指差していました。沿道からはメッセージの内容がよく分からないのですが、すぐ後ろを走っているランナーの目には留まって、走り終わるまでにたくさんのランナーに骨髓バンクをアピールできたのではないかと思います。

沿道応援で知り合いのランナーに出会えると、お互いパワーをもらいあつてとても嬉しくなります。今回、協議会のチャリティランナーは63名とかがいました。次の機会には、応援アプリでチャリティランナーの位置情報を確認しながら声を掛け合って応援できたら、もっともっと盛り上がり我想いました。（石崎友子）

患者さんとその家族や骨髄バンクに関わる人たちに伝えるために

篠田剛

骨髄バンクは知っていましたが、自身の誤解によりリスクを恐れて骨髄ドナー登録をしないで献血を続けていました。2009年3月に富士見市議会議員選挙に41歳で初当選してしばらくたった頃、小さいころからよく知っている高校生の英雄君が血液疾患になったと知り、何かしたいと考え骨髄ドナー登録をしました。しかし2012年9月に残念ながら20歳の英雄君は闘病の末に永眠し悲しくてたまりませんでした。このことに触発され12月の本会議で骨髄移植ドナー助成事業導入に向けて市政一般質問を行いました。

しばらくして、同月に骨髄バンクから適合の連絡が45歳で初めて来ました。翌年3月に2期目の市議会議員選挙がありましたので、家族や支援者の皆さんに提供の意思を伝えてすんなり納得して頂きました。骨髄バンクのコーディネーターに選挙や議会日程のこと、花粉症の薬について相談しながら進めました。確認検査を終えてしばらくして2月に骨髄バンクから中止の連絡がありました。その後2期目の当選を果たし2014年6月に骨髄移植ドナー助成事業導入に向けて2回目の市政一般質問を本会議で行いました。同年10月に骨髄移植ドナー助成制度の議案を知った際には、英雄君の親御さんに報告ができてとても嬉しかったです。

2019年3月に議長に就任し公務を続ける日々を過ごしていると、同年12月に2回目の適合通知が52歳で来ました。今回も提供の意思は変わらず、家族や副議長と議会事務局、会派の議員に説明し協力して頂くことになりました。12月15日に電話がきたコーディネーターに、議長公務や議会日程と花粉症の薬について相談しました。一方、年明けから新型コロナウイルス感染拡大が始まり、自分が万が一感染して骨髄提供を待っている患者さんに悪い影響を与えてしまうことが不安でたまりませんでした。しかし反面、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の影響で議長公務が減り、骨髄提供に向けた日程調整が簡単になりました。

入院日程が決まると、他の全議員や関係者に骨髄を提供するため入院することを伝え協力して頂きました。骨髄採取に向けて最善の健康状態にするために飲酒を控え、食事以外のマスク着用など最大限の努力をしました。確認検査を12月24日と最終同意を3月6日に行い、3月中に自己血採血を2回行いました。初めての緊急事態宣言の中、4月中旬に入院し骨髄採取を行い、6日後の午前中に無事退院しました。

入院中は新型コロナウイルス情報収集や議会の対策を考え調整することがあり、忙しい日々でした。また病院の食事は温かく、そして健康な状態で頂いたことやテレビを見ないで集中したためなのかおいく

感じました。また、緊急事態宣言に係る外出制限の影響なのか、空がきれいになり、高い病棟の窓から見える富士山などの山々がとても美しく感じました。



採取当日の朝手術室に入り、口に酸素マスクを着装して全身麻酔が始まると意識はなくなり、気が付くと無事に終わりました。お昼前に病室へ運ばれた時は一人で歩いてトイレに行きました。昼食は麻酔のせいかとることができませんでしたが、夕食は全く問題なく取れました。その夜は骨髄を提供するため2か所に針を刺した腸骨を下にすると痛みが少しあったので俯せで寝ました。翌日は市長へ要望書提出に向けた打ち合わせを問題なく行い、仰向けで寝ることができました。骨髄採取の翌々日の午前中に退院して、自分で運転をして市役所に向かい、会派の議員と午後4時30分に市長へ新型コロナウイルス感染拡大防止対策について要望書を提出しました。

骨髄提供を無事に終え、コーディネーターをはじめとする関係者の皆様に少しでも恩返しできればと考え、日本骨髄バンクの賛助会員になりました。また県内他自治体において、担当課職員が運用解釈の間違いで骨髄ドナー助成対象の方が交付されなかったお話を聞き、その自治体の公明党議員に連絡したところ、改善し受け取ることに公明党のネットワークの温かさを知ることが出来ました。このことがきっかけで埼玉県内の骨髄移植ドナー助成事業について、自治体のホームページと例規集を調査しました。課題があると思われる自治体を8種類に分類し、積極的と思われる加須市などの自治体を3種類に分けました。この調査結果を担当コーディネーターや(公財)日本骨髄バンク広報渉外部などに報告し、また課題がある自治体の公明党議員に連絡させて頂きました。

11月に埼玉県の「骨髄ドナー登録説明員養成講座」を偶然知り、参加して埼玉骨髄バンク推進連絡会に入り、2021年2月から骨髄ドナー登録説明員として微力ですが活動しています。献血会場で骨髄ドナーの登録者を増やすため継続的に多くの時間を費やしている説明員の先輩方や、コーディネーターなど(公財)日本骨髄バンクおよび関係する医療従事者の皆様の高い志と、熱い想いに触れ感謝し感動しています。私も熱い想いをもちドナー登録説明員として頑張ります。

東京港南マリンロータリークラブ例会

3月15日に東京港南マリンロータリークラブの例会に若木さんと光江が参加しました。昨年末、東京港南マリンロータリークラブ様より東京の会の活動内容を卓話としてお話し頂きたくと、ご連絡がありました。また、東京港南マリンロータリークラブ様で開催された骨髄バンクチャリティーゴルフコンペの収益の一部を寄付したいとのご意向も伺い、参加する運びとなりました。

当日は会員7名が参加され、会長よりチャリティーゴルフの寄付20万円を頂きました。東京の会からは故・毛塚みどりさんが掲載されている東京の会10周年記念誌「もう一人の私」と、2003年7月に東京マリンロータリークラブ(現・東京港南マリンロータリークラブ)様より寄贈して頂いた「紙折り機」の感謝と引退を伝える記事が掲載された東京の会



通信2022年11月号を皆さんに差し上げました。卓話では若木さんと光江で、会話形式で移植の経験や骨髄バンクの現状と課題について30分程度お話をさせて頂きました。会員の方はとても真剣に話を聞いて下さって、移植のことや骨髄バンクについて質問を頂くなど、とても良い時間となりました。

最後に東京港南マリンロータリークラブ様のご支援とご配慮に心から感謝いたします。東京港南マリンロータリークラブ様には、毎年品川宿場祭りにテントを出して頂きバザー一品や青果の販売をお手伝いさせて頂いております。この3年間は新型コロナの影響で開催が見送られていましたが、今年は開催される予定と伺っております。また、一緒にできることを大変楽しみにしております。

最後に東京港南マリンロータリークラブ様のご支援とご配慮に心から感謝いたします。東京港南マリンロータリークラブ様には、毎年品川宿場祭りにテントを出して頂きバザー一品や青果の販売をお手伝いさせて頂いております。この3年間は新型コロナの影響で開催が見送られていましたが、今年は開催される予定と伺っております。また、一緒にできることを大変楽しみにしております。

最後に東京港南マリンロータリークラブ様のご支援とご配慮に心から感謝いたします。東京港南マリンロータリークラブ様には、毎年品川宿場祭りにテントを出して頂きバザー一品や青果の販売をお手伝いさせて頂いております。この3年間は新型コロナの影響で開催が見送られていましたが、今年は開催される予定と伺っております。また、一緒にできることを大変楽しみにしております。

最後に東京港南マリンロータリークラブ様のご支援とご配慮に心から感謝いたします。東京港南マリンロータリークラブ様には、毎年品川宿場祭りにテントを出して頂きバザー一品や青果の販売をお手伝いさせて頂いております。この3年間は新型コロナの影響で開催が見送られていましたが、今年は開催される予定と伺っております。また、一緒にできることを大変楽しみにしております。



(光江健太郎)

全国協議会 関東甲信越ブロックセミナー開催

3月19日全国協議会の関東・甲信越ブロックセミナーがZoomで開催されました。東京・神奈川・埼玉・千葉・新潟・長野で活動するボランティアメンバー、6団体19名と全国協議会から7名、合計26名が参加しました。

東京の会からは松下さん・泉さん・三土さん・櫻井さん・小石川さんが参加。東京の会の活動報告は松下さんから、有楽町献血ルームでのドナー登録推進活動報告と、東京都主催の説明員養成講座での講師補助としての活動や新人説明員へボランティア活動を勧めていることなどを話してもらいました。養成講座を受講した説明員の方が東京の会でボランティアを始めてくれています。今後も仲間が増えることを期待しています。

千葉の会からは、ケア帽子での患者支援、ドナー助成制度休暇制度導入の活動、イオンタウンでの登録会などの報告がありました。神奈川の会では大学での献血併行登録についてやコットンキャップによる患者支援について、新潟からはクラウドファンディング成功へのお礼の言葉、長野からはNPO法人化による活動報告が話されました。埼玉からもチャリティーコンサート復活や医療相談会患者家族交流会の開始などの報告がありました。

各地のボランティアの仲間が、コロナ禍にもめげずに徐々に活動を開始していることを知り、大きな励みになりました。今後とも関東甲信越の仲間とも連携しながら情報交換も大切にしていきたいと思います。

(若木換)

7月会報発送

「おりおり」のお知らせ

日時：2023年7月2日(日)14時00分より

※発送作業は会報が発行される奇数月のみとなります。

※最新情報を東京の会ホームページ等でご確認の上、お越しください。

場所：全国協議会事務所(千代田区東神田1-3-4 KTビル3階)

交通：都営新宿線「馬喰横山」駅 徒歩5分

都営浅草線「東日本橋」駅 徒歩7分

東京メトロ日比谷線「小伝馬町」駅 徒歩7分

JR総武快速線「馬喰町」駅 徒歩5分

※9月「おりおり」予定 2023年9月3日(日)14時より

※今お読みになっている「東京の会通信」を約500部折って封入し発送します。どなたでもご参加いただけますが、必ずマスク着用の上、患者さんや元患者さん、持病のある方やご年配者など、感染リスクの高い方はご無理のないようお願い致します。なお、状況により発送作業を中止する場合は、メーリングリストやホームページ等でお知らせしますので、ご確認ください。

心のこもったご寄付ありがとうございました。(2023.2.16~4.15)

丸尾悦子さん 7,000円／匿名希望 5,000円／佐野啓子さん 2,000円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年3,000円)を差し引いて掲載させていただきました。

〈募金箱〉神田味処居酒屋「味彩」 石川潤さん 6,153円／「松崎内科クリニック」 松崎道男さん 14,536円
港区白金台「ヴァンティアン美容室」 高橋友三郎さん 4,630円

＜チャリティーゴルフでの寄付＞東京港南マリンロータリークラブ 200,000円

編集者 雑記



▼衆院厚生労働委員会は「全世代対応型の持続可能な社会保障制度を構築するための健康保険法等の一部を改正する法律案」について実質的な審議を開始しました。出産育児一時金の増額などのほか、かかりつけ医機能が発揮される制度整備を行うこと等について提案と質疑がありました。法案ではかかりつけ医機能について「身近な地域における日常的な診療、疾病の予防のための措置その他の医療の提供を行う機能」と規定しています。

▼コロナ等の今までに例を見ない感染症が拡大したり、団塊の世代が後期高齢者入りし生産年齢人口が急減していくことが見込まれるなかで、身近な地域における医療機関の役割が今後ますます重要になってきます。日本医師会では「かかりつけ医とは、健康に関することを何でも相談できるうえ、最新の医療情報を熟知して、必要な時には専門医・専門医療機関を紹介してくれる身近で頼りになる地域医療、保健、福祉を担う総合的な能力を有する医師」と定義しています。そういったかかりつけ医がどこにいるのか、あるいは日常的に診察してくれている医師がそういった能力を持っているのかはなかなかわかりません。かかりつけ医を持ちたいと思っている人の7割が「情報が不足している」と回答し必要な情報として「得意とする治療分野」「連

携医療機関」「診療実績」等をあげています。

▼全世代型社会保障構築会議の中間整理の中では「今回のコロナ禍により、かかりつけ医などの地域医療の機能が十分作動せずに総合病院に大きな負荷がかかるなどの課題に直面した。かかりつけ医機能が発揮される制度整備を含め、機能分化と連携を一層重視した医療・介護体制等の国民目線での改革を進めるべきである」と指摘しています。小さな病院や診療所と大学病院などの総合病院では役割が異なります。患者さんごとにかかりつけ医があり、日頃の健康状態を知っていて気軽に相談できればそこから専門医を紹介してもらうこともでき、限りある医療資源を効率よく使用することに繋がります。

▼複数の慢性疾患や高齢者増加による医療と介護の複合ニーズが高まる今、身近な地域における医療機関の役割はますます重要になってきます。国の責任でかかりつけ医機能がどのようなものなのかを分かりやすく整理し明確にして、医療機関に対して機能の報告を求め、都道府県がその現状を把握して公表することが不可欠です。そして国民・患者がかかりつけ機能を有する医療機関を適切に選択できるようにさらに情報提供の強化が必要です。

▼2024年4月1日から全世代対応型社会保障法案が施行されます。この法案により、かかりつけ医機能の制度整備が進み、かかりつけ医に関する情報提供の充実で国民・患者が医療機関を適切に選択できること、地域の医療提供体制が強化され、国民・患者により良い医療が提供されることが実現することを切望します。

(A)

東京の会 「5月、6月定例会」 のお知らせ

5月20日(土)、6月17日(土) 午後5時30分より

定例会の開催については新型コロナウィルスの感染拡大状況を考慮し、オンライン開催も取り入れて臨機応変に対応して参ります。

会場：こくみん共済coop東京会館

(旧：全労済東京会館) 3階会議室

※JR新宿駅西口下車7分 (新宿区西新宿7-20-8)

※地下鉄丸の内線新宿駅下車1番出口徒歩2分

青梅街道新宿警察署向かい・「キャン☆ドウ」角入り右側

※7月定例会予定・7月15日(土)午後5時30分より

郵便振替口座番号

00100-1-555195

他銀行から振込みの場合 ゆうちょ銀行(9900)／〇一八支店(018) 普通口座No.4180512

加入者名義

骨髄バンクを支援する東京の会